

**注意点1**



**右手**

**手首の回転を使って弦を叩くべし!**

スラップ奏法は、右手親指で弦を叩く“サムピング”と、人差し指で弦を引っ張る“プル”を組み合わせたテクニックだ。ここでは、サムピングの基本的な弾き方を解説しよう(写真①&②)。サムピングの最初の難関は、音がしっかり出せるか?ということになる。親指の第一関節の側面を使い、ネックの最終フレット付近を叩いてほしい(写真③&④)。腕を上下させると、音粒や音量が揃わず、速い連打もできないので気をつけよう。基本的には、腕を弦に近い場所に固定して、手首の回転を使って弦を叩くのだ。右手でドアのノブを掴み、“ガチャガチャ”と回すイメージで、手首を動かしてみるとよいだろう。



サムピングは、親指を振り上げて……



弦を力強く叩いて、アタック音を出す。



サムピングは、親指の第一関節の側面を使う。



サムピングする場所は、最終フレット周辺がよい。

**注意点2**



**右手**

**手首をコンパクトに回してサムピングを素早く弾こう!**

このエクササイズのようなサムピングのみを使うフレーズを攻略するためには、親指を集約的に鍛え、さらに右手首の回転速度を上げることがポイントになる。サムピングは、野球のバッターのスウィングと似ていて、大振りではボールを的確に捉えられない【註】。したがって、コンパクトなスウィングを心掛けることが大切だ(写真⑤~⑧)。特にビギナーは、サムピング音を大きく鳴らしたいがために、右手を必要以上に振りかぶってしまうことが多いので気をつけよう。まずは、左手を使わない梅・竹・松フレーズを使って、正しいサムピングの弾き方を右手に叩き込むのだ!



親指を大きく振り上げてしまうと……



サムピングの連打ができないので注意!



コンパクトな動きを心掛けて……



スピーディに弾こう。

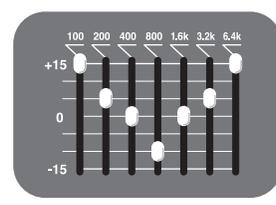
~コラム7~

**将軍の戯れ言**

ロック・バンドにおいて、ベーシストのスラップは見せ場の1つになる。したがって、音量をグッと上げながら、スラップが抜けてくる音色に切り替えることが大切だ。筆者は、ライブではマルチ・エフェクター内のイコライザーのハイとローを持ち上げて“ドンシャリ”にして(図1)、さらにゲインも上げている(ちなみに、スラップ時にサンス・アンプのベース・ドライバを使用するベーシストも多い)。“スラップにはドンシャリ”は常套手段の1つになるが、読者のみんなも自分に合ったグッド・サウンドをぜひ探してみてください。

**高域と低域を上げて、抜けの良い音を実現! スラップ時のサウンド・メイク法**

図1 ドンシャリのセッティング図



V時にセッティングして、高域と低域をブーストする。アタック感の強い“バキバキ”したサウンドに仕上げるとういだろう。

【大振りではボールを的確に捉えられない】イチローのようにホームランを狙わず、ヒットをコツコツ打つことも美学だ。メタル系ベーシストも、激しく弾くだけでなく、状況に応じて弾き方を変えられなくては行かん!